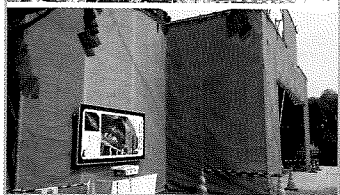
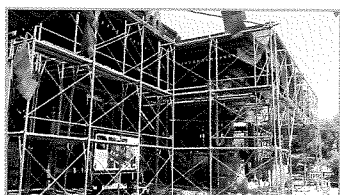


式年大祭 記念事業経過報告

平成二十九年酉年式年大祭に向け、今年七月より漆塗り替え工事が始まりました。現在、計画事業も順調に進捗致しております。来年秋頃には完成の予定です。

六月の足場工事より社殿は完全に覆われており、境内が狭くなっております。御参拝の皆様にはご不便とご迷惑をお掛け致しますがご理解を戴き、今後も皆様より賜りましたご厚情を糧にこの記念事業の完成に向け、鋭意努力をして参る所存でございます。

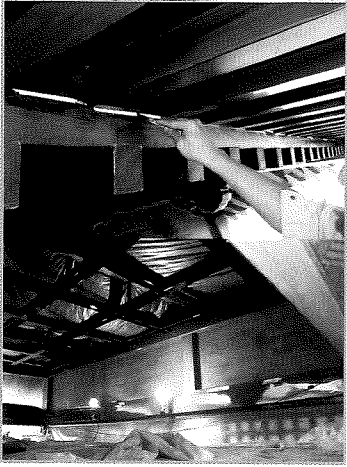
また引き続き記念事業資金のお願いをすることでございます。何卒宜しくご高配賜りますようお願い申し上げます。



社殿は覆い屋で隠されていますが、通常通りご参拝いただけます。



古い漆を綺麗に洗い落とす作業から始められます。



傷を生漆のパテで埋める作業の後、下塗りを重ね、仕上げ漆を塗り重ねていきます。

奉納

式年大祭（二万円以上・敬称略）

平成二十七年二月一日、平成二十七年八月三十一日

- 茨城県小美玉市 中島幸一郎
- 川越市 木野目講中
- 新座市 渡邊世一
- 世田谷区 岩崎庄一
- 世田谷区 野口正太郎
- 青梅市 野口彰子
- 青梅市 北島知生
- 青梅市 須崎直成
- 青梅市 須崎晃輔
- 青梅市 原島瑞葵
- 表講中 岸野晴一
- 比企郡川島町 谷治博史
- 川越市 戸田栄造・幸子
- 西多摩郡日の出町 中村直子
- 西多摩郡瑞穂町 大熊慶
- 西多摩郡日の出町 木住野忠
- 世田谷区 尾澤正和
- 羽村市 田村弥生
- 西多摩郡瑞穂町 吉岡功
- 朝霞市 内田栄二
- 西東京市 長谷川正
- 旗井講中 旗井神社氏子総代会
- 所沢市 神山友和
- 所沢市 神山茂子
- 朝霞市 森田朱香子
- 朝霞市 鈴木泰高
- 八王子市 西野貢右
- 練馬区 中井川萬嗣
- 武蔵村山市 (株)サンペー 進藤喜一
- 練馬区 大泉幸西講中 加藤友久
- 町田市 金子初美
- 横浜市磯子区 市川良子
- 青梅市 林三喜
- 青梅市 小野源一
- さいたま市桜区 千葉善邦
- 羽村市 渡邊真理
- 富士見市 鶴馬紺屋 横田登
- 草加市 田口つばさ
- 秦野市 石田正司
- 川口市 濱中満江
- 西多摩郡日の出町 森田豊
- 藤原満

奉納・営繕資金（二万円以上・敬称略）

平成二十七年二月一日、平成二十七年八月三十一日

- 小金井市 中崎正巳
- 目黒区 三田篤志
- 清瀬市 小原正之
- 青梅市 川杉純一
- 上尾市 株式会社生建設 栗原寛明
- 狭山市 松本和治
- 岩手県大船渡市 及川一司
- 青梅市 澤本晃利
- 文京区 半澤吉男
- 愛知県豊田市 嶋田浩典
- さいたま市浦和区 宮井章
- 江戸川区 梅原嶽三
- 青梅市 SOROMI 堀口ひとみ
- さいたま市緑区 戸谷晟司
- 昭島市 宮北勝利
- 板橋区 上板橋桜川敬神講
- 葛飾区 葛島馨
- 富士見市 萩元實
- 東久留米市 中秀男
- 青梅市 瀧柱郎
- 越谷市 中島昇一
- 秩父郡皆野町 金子千侍
- 日野市 白根眞澄
- 武蔵村山市 波多野稔
- 草加市 藤本留美子 加藤諭
- 青梅市 (株)成康工務店
- 青梅市 (株)向山食品
- 青梅市 (株)榎澤商店 武藤一由
- 青梅市 武藤浩作酒店
- 八王子市 大久保貴惟
- 所沢市 八木岡照義
- 川崎市 御嶽神社 参詣会
- 葛飾区 武笠一男
- 青梅市 石井慶子
- 青梅市 成瀬康郎
- 横浜市神奈川區 成瀬太一
- 小金井市 阪本林蔵

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっております。太々神楽はどなたでもご奏上頂けますので、皆様のお申込をお待ち申し上げます。

平成二十七年二月一日、平成二十七年八月三十一日

- 狭山市 笹井講中
- 新座市 大和山講中
- 東久留米市 小山講中
- 川崎市 稲田堤講中
- 川崎市 馬絹講中
- 秦野市 秦野太々講
- 秦野市 明治神宮至誠館道場
- 渋谷区 菅田南町講中
- 横浜市 菅田山講中
- 大田区 六郷講中
- 川崎市 坂戸講中
- 川崎市 中福講中
- 川崎市 市ノ坪御嶽講中

石段奉納

この程篤志家様より石段奉納を賜り、随身門上の階段を修理することとなりました。平成九年から始めた境内石段整備ですが、崇敬者様の篤い御信心と御奇進を賜り、お陰様であと僅かで終了するところとなりました。皆様のご厚情に感謝申し上げます。

三十万円以上

- 青梅市 増田高一・正子
- 青梅市 今井西組御嶽講
- J A 東京中央会 須藤正敏

傳法

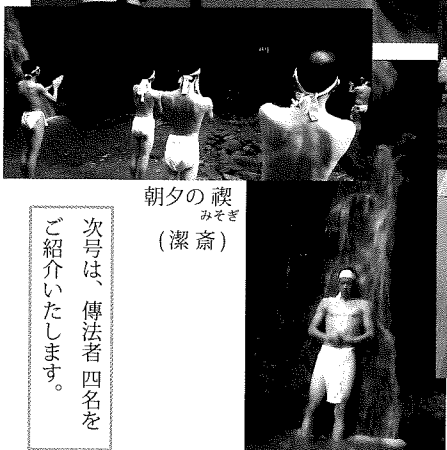
今年の夏、四名の方が傳法を終了しました。傳法とは、当社に御師（神職）として奉仕させて頂く許可を受ける為の伝統行事です。各社家を受け継ぐ者が俗界を離れ神社に籠ります。一週間絶やさぬご神火を熾すことから始められ、毎日潔斎をし、歴史・作法・祝詞など神職としての嗜み全てが伝授されるのです。

いつもの生活環境を断ち、節制した生活を送ることは若い者達にはとても大変なことです。今回四名ともあつて、仲間同士励まし合いながら大神様のご加護を戴いて目出度く無事終了することが出来ました。ここで傳法の様子を少しご紹介いたします。

ほうこくさい 奉告祭



火熾しひおこ



朝夕の禊みそぎ (潔斎)

次号は、傳法者四名をご紹介します。

作法